

研 修 区 分 表

令和2年 1月30日作成

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通信	実習	計	
1 職務の理解 (2時間)	2	—	—	2	【到達目標】 ●これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える生活援助中心型の実践について具体的なイメージを持って実感できるようにする。 ●介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具多的イメージを持って以降の研修に実践的に取り組めるようにする。
(1)多様なサービスの理解	1	—	—	1	【講義内容】 ●介護保険による居宅サービス ●介護保険外のサービス
(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解	1	—	—	1	【講義内容】 ●介護サービスを提供する現場の理解 ●生活援助中心型の訪問介護で行う業務の理解
2 介護における尊厳の保持・自立支援 (6時間)	6	—	—	6	【到達目標】 ●介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚する。 ●自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたって基本的視点を理解する。
(1)人権と尊厳を支える介護	2	—	—	2	【講義内容】 ●人権と尊厳の保持 ①介護における権利擁護と人権尊重②介護における尊厳保持の実践③エンパワメントの視点④利用者のプライバシー保護 ●ICF ●QOL ①QOLの考え方②生活の質 ●ノーマライゼーション ●虐待防止・身体拘束禁止 ①高齢者虐待防止法②身体拘束の禁止
(2)自立に向けた介護	2	—	—	2	【講義内容】 ●自立支援 ①自立・自律支援②残存機能の活用③動機と欲求 ④意欲を高める支援⑤個別ケア⑥重度化防止 ●介護予防 ①介護予防の視点
(3)人権に関する基礎知識	2	—	—	2	【講義内容】 ●人権に関する基本的な知識、高齢者への配慮等。
3 介護の基本 (4時間)	4	—	—	4	【到達目標】 ●介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づく。 ●介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができるようになる。

(1)介護職の役割、専門性と多職種との連携	1	—	—	1	<p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●介護環境の特徴の理解 ●介護の専門性 ①利用者主体の支援姿勢②自立した生活を支えるための援助③根拠のある介護④チームケアの重要性 ●介護にかかわる職種 ①多職種連携の理解
(2)介護職の職業倫理	1	—	—	1	<p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●職業倫理 ①専門職の倫理の意義②介護の倫理③介護職としての社会的責任④プライバシーの保護
(3)介護における安全の確保とリスクマネジメント	1	—	—	1	<p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●介護における安全の確保 ①事故に結びつく要因を探り対応していく技術 ●事故予防、安全対策 ①分析の手法と視点②事故に至った経緯の報告③ヒヤリハットの報告④情報の共有 ●感染対策 ①感染の原因と経緯②「感染」に対する正しい知識
(4)介護職の安全	1	—	—	1	<p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●介護職の心身の健康管理 ①健康管理の意義と目的②心身の健康管理③ストレスマネジメント ●感染予防 ①感染症対策②手洗いうがいの励行③手洗いの基本
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (3時間)	3	—	—	3	<p>【到達目標】</p> <p>介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れについて、その概要のポイントを習得する。</p>
(1)介護保険制度	1	—	—	1	<p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●介護保険制度創設の背景および目的、動向 ①介護保険制度の基本理念②ケアマネジメント③予防重視型システムへの転換④地域包括支援センターの設置 ●介護保険制度のしくみの基礎的理解 ①保険制度としての基本的仕組み②介護給付と種類③予防給付と種類④要介護認定の手順 ●制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 ①財政負担②指定介護サービス事業者の指定
(2)医療との連携とリハビリテーション	1	—	—	1	<p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●医行為と介護 ①医療との連携に必要な知識 ●訪問看護 ①どんなサービスなのか ●施設における看護と介護の役割・連携 ①施設での看護と介護の連携の必要性②看護職と介護職の専門性と連携のポイント ●リハビリテーション ①リハビリテーションとは②リハビリテーションと介護の連携

(3) しょうがい福祉制度および その他制度	1	—	—	1	<p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● しょうがい者福祉制度の概念 ① しょうがいの概念② しょうがい福祉理念としての「自立」 ● しょうがい者福祉制度の仕組みの基礎的理解 ① サービス利用の流れ ● 個人の人権を守る制度の概要 ① 日常生活自立支援事業② 成年後見制度
5 介護におけるコミュニケーション技術 (6時間)	6	—	—	6	<p>【到達目標】</p> <p>高齢者やしょうがい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを図ることが専門職に求められていることを認識し、生活援助中心型サービス職務に従事する者として最低限のとるべき（とるべきでない）行動例を理解する。</p>
(1) 介護におけるコミュニケーション	3	—	—	3	<p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コミュニケーションの意義、目的、役割 ① 相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮② 傾聴③ 共感の応答 ● コミュニケーションの技法 ① 言語的コミュニケーションの特徴② 非言語コミュニケーションの特徴 ● 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ① 利用者の思いを把握する② 利用者の感情に共感する③ 家族の心理を理解する④ 信頼関係を形成する ● 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 ① 視力障害に応じたコミュニケーション技術② 聴覚障害に応じたコミュニケーション技術③ 失語症・構音障害に応じたコミュニケーション技術④ 認知症に応じたコミュニケーション技術 <p>【演習】</p> <p>2人一組で、状況・状態に応じた利用者・介護者双方向のコミュニケーションのロールプレイングを行う。</p>
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	3	—	—	3	<p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 記録における情報の共有化 ① 記録の意義と目的② 記録の書き方と留意点③ 5W1H ● 報告・連絡・相談 ● コミュニケーションを促す環境 ① 会議の意義と目的② 情報共有の場
6 老化と認知症の理解 (9時間)	9	—	—	9	<p>【到達目標】</p> <p>加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。</p>
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	3	—	—	3	<p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ① 喪失体験 ● 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ① 精神的機能の変化と日常生活への影響② 身体的機

					能の変化と日常生活への影響
(2) 高齢者と健康	3	—	—	3	【講義内容】 ●高齢者に多い病気と日常生活上の留意点
(3) 認知症を取り巻く状況	0.5	—	—	0.5	【講義内容】 ●認知症ケアの理念 ●認知症ケアの視点 ①問題視するのではなく、人として接する②できないことではなく、できることをみて支援する
(4) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1	—	—	1	【講義内容】 ●認知症の概念 ●認知症の原因疾患とその病態 ●原因疾患別ケアのポイント ●健康管理 ①認知症の定義②もの忘れとの違い③健康管理④治療⑤脱水
(5) 認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	1	—	—	1	【講義内容】 ●認知症の人の生活しょうがい、心理・行動の特徴 ①認知症の中核症状 ②認知症の行動・心理症状（B P S D） ③認知症と生活環境 ●認知症の人への対応 ①実際のかかわり方の基本
(6) 家族への支援	0.5	—	—	0.5	【講義内容】 ●家族への支援を進めるうえで大切な視点 ●家族へのレスパイトケア
7 しょうがいの理解 (3時間)	3	—	—	3	【到達目標】 しょうがいの概念とICF、しょうがい者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解する。
(1) しょうがいの基礎的理解	1	—	—	1	【講義内容】 ●しょうがいの概念とICF ①ICFの分類と医学的分類②ICFの考え方 ●しょうがい者福祉の基本理念 ①ノーマライゼーションの概念
(2) しょうがいの医学的側面、生活しょうがい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1	—	—	1	【講義内容】 ●身体しょうがい ①視覚しょうがい②聴覚、言語しょうがい③肢体不自由（運動機能しょうがい）④内部しょうがい ●知的しょうがい ①知的しょうがいとは②介護上の留意点 ●精神しょうがい（高次脳機能障害・発達障害を含む） ①精神しょうがい（疾患）の理解②統合失調症・気分（感情障害）・依存症などの精神疾患③高次脳機能障害④広汎性発達障害・学習障害注意欠陥多動性障害などの発達障害⑤精神しょうがいのある人の特徴と介護の留意点
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	1	—	—	1	【講義内容】 ●家族の理解としょうがいの受容支援 ①家族支援の視点②しょうがいの受容と家族 ●介護負担の軽減

				①レスパイトケア
8 心とからだのしくみ と生活支援技術 (24時間)	24	—	—	24
8 【Ⅰ介護に関する基礎的理解】				
(1) 介護の基本的な考え方	2	—	—	2
8 【Ⅰ介護に関する基礎的理解】				
(2) 介護に関する心と からだのしくみの基礎的理解	3	—	—	3
8 【Ⅰ介護に関する基礎的理解】				
(3) 介護に関するからだの しくみの基礎的理解	3	—	—	3
8 【Ⅱ自立に向けた介護の展開】				
(4) 生活と家事	4	—	—	4
8 【Ⅱ自立に向けた介護の展開】				
(5) 快適な居住環境整備と 介護	2	—	—	2

①レスパイトケア

【到達目標】

・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、生活援助中心型サービスの安全な提供方法等を理解し、基本的な一部または全介助等の介護が実施できるようにする。
・尊厳を保持し、その人の自立および自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。

【講義内容】

●理論に基づく介護

①介護の理論

②「介護」の見方・考え方の変化

●法的根拠に基づく介護

・介護の法的根拠

【講義内容】

●感情と意欲に関する基礎知識

①感情のしくみ②意欲のしくみ

●自己概念と生きがい

①自己概念の視点②生きがいとQOLの視点

●老化やしょうがいを受け入れる適応行動とその阻害要因

①高齢者の心理

【講義内容】

●人体の各部の名称と動きに関する基礎知識

●骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用

●利用者の様子の普段との違いに気づく

【講義内容】

●生活と家事の理解

①生活歴②自立支援

●家事援助に関する基礎知識と生活支援

①調理②洗濯③掃除・ごみ捨て④衣服の補修・裁縫

⑤衣服・寝具の衛生管理⑥買い物⑦ベッドメイク

【実技】

・ベッドメイク

【講義内容】

●快適な住宅環境に関する基礎知識

①居住環境とは②安心して快適な生活の場づくり

●高齢者・しょうがい者特有の居住環境整備と福祉用具の活用

①生活空間と介護②住宅改修③福祉用具の活用

【演習】

・実際に福祉用具等を見て、触れることにより上記内容についての理解を深める。

<p>8 【Ⅱ自立に向けた介護の展開】</p> <p>(6) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	2	-	-	<p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●移動・移乗に関する基礎知識 ①なぜ移動をするのか②もっている力の活用と自立支援 ●移動・移乗に関する福祉用具とその活用方法 ①手すり、歩行器、杖②車いす ●歩行等が不安定な者の移動支援・見守り（車いす・歩行器・つえ等） <p>生活援助と身体介護での介護職の身体の向く対象の違い</p> <p>【実技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に体験し、移動・移乗等での起こりやすい事故について考える。 ・車いすの操作、車いすでの移動 ・ベッド、車いす間の移乗
<p>8 【Ⅱ自立に向けた介護の展開】</p> <p>(7) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	2	-	-	<p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●食事に関する基礎知識 ①なぜ食事をするのか ●食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法 ①「おいしく食べる」を支援するために ②食事関連用具③誤嚥・窒息の防止④低栄養の改善と予防⑤脱水の予防⑥口腔ケア ●食事と社会参加の留意点と支援 <p>【実技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嚥下の体操 ・食事関連用具の体験 ・食事のとりやすい姿勢について（見守り）
<p>9 【Ⅱ自立に向けた介護の展開】</p> <p>(8) 睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	2	-	-	<p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●睡眠に関する基礎知識 ①なぜ睡眠が必要なのか②睡眠を引き起こすしくみ ③睡眠の種類 ●睡眠環境の整備と関連する用具の活用方法 ①「安眠」を支援するために②寝室の空間構成 ③睡眠に関する福祉用具④安楽な姿勢・褥瘡予防 ●快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法 <p>【実技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安楽な姿勢、体位の実技、寝室の工夫、安眠のための環境について、実技から考えていく。 ・褥瘡予防のための体位交換
<p>9 【Ⅱ自立に向けた介護の展開】</p> <p>(9) 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護</p>	2	-	-	<p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●終末期に関する基礎知識 ①終末期の理解②終末期の変化の特徴 ●生から死への過程 ●「死」に向き合うところの理解 ①「死」に対するところの変化 ②「死」を受容する段階 ③家族の「死」を受容する段階 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生から死への過程の中で介護者としてどのようにかかわっていくのか、グループ討議の中で理解を深めていく。

9 【Ⅲ生活支援技術演習】					【講義内容】 ●介護過程の目的・意義・展開 ①根拠にもとづいた介護の実践 ②介護過程の展開イメージ 【演習】 ・グループに分かれて、事例についてのアセスメントを考え、介護計画を作成して発表する中から様々な課題を見つけていく。
(10) 介護過程の基礎的理解	2	—	—	2	
9 振り返り (4時間)	2	—	—	2	【到達目標】 研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を図る。
(1) 振り返り	1	—	—	1	【講義内容】 ①研修を通して学んだこと ②今後継続して学ぶべきこと ③根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等） 【演習】 ・研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを、グループ討議の中で振り返りと確認を行う。
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1	—	—	1	【講義内容】 ①継続的に学ぶべきこと ②研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例を紹介 【演習】 ・これからの介護職のあり方、また何が求められているかについて、グループで話し合う。

※記載内容は、要綱の別紙2の内容を網羅したものとすること。

※講義と演習は一体的に実施すること。「目標、内容等」は目次を設けて分かりやすく記載すること。なお、科目9の(6)から(11)および(15)の実技演習は、実技内容等を記載すること。

※時間配分の下限は30分単位とする。